

## 第 26 計 ; 中国人は何故感謝と良心が少ないのか？

—日本仏教では罰が当たる、中国道教では地獄に落ちる—

中国三峡には重慶から白帝城の次に鬼城があります鬼城は道教の寺です



私は初め、まるで童話“トムソーヤの冒険”のような感覚で、ある中国人に連れられて中国に行きました。そして気づきました。中国人は、付き合いが深くなるに従って増長してきます。日本人のお人よしの気質から援助をすればするほど、過去の不安を忘れ、やがて自信満々、未来には危険などないというバラ色の人生観へとその態度が変化してくるのであります。

男女問わずに、恰も女心のように中国人の心が変化していくのです。

そして、純粋さが無くなり人間性が変わってくるのであります。

私は“金”に感謝しても“人の心”に感謝しない中国人が多すぎることに、不思議でたまらなく思います。日本人であれば成功すれば自然に協力者に感謝するのは必定であります。私は中国人が文化大革命・天安門事件でどれだけ人間の自尊心が破壊され、心の傷を今なお

引きずっていることを少しは理解しているつもりではありますが、それにしても“感謝と良心”を忘れた中国人が多いことは嘆かわしく思います。

しかしながら、何遍も申しますが「中国人にも良い人はいます」

何故なら、ある中国人のご主人は私を裏切ったが、その奥さんは裏切らなかった経験があるからであります。私はその奥さんがある上場会社に（試験成績は非常に悪かったのですが）頼み込み、例外的に採用してもらったのです。一方、奥さんには以前に「先生！絶対に私の主人を信用しては駄目ですよ」と聞かされていたのに私はその主人を信用して見事に裏切られました。

嘗て、中国の周恩来首相は「日本にも良い人いるよ」と言って、日本に賠償を求めなかった。周恩来首相の初恋の人は横浜の中山通りにある下宿先の娘さんであった。孫文も中山通りに住んだことがあり、日本名は“中山”であった。現在中国には“中山記念館”がたくさんあり、孫文の故郷も中山と聞く。周恩来首相は京大（一校説もある）の受験に失敗して中国に帰った。その失恋の心の思いの詩が京都嵐山の亀山公園の記念碑に書かれてある。また、孫文の辛亥革命の成功に資金を提供したのも日本人である。

以上が周恩来、孫文の日本との関わりあいの一端であります。実に「深イ〜」ものがあります。

話はさかのぼりますが、私は幼少の頃、体が弱くて殆ど家で寝ているという状態でした。ですから、童話の本を何回も繰り返し読んだものです。その結果、童話の“裸の王様”の子供の目のままで成人し、65歳の現在に続いているのであります。従って、無邪気な私は「変だな」と感じたら極力付き合いを絞ることにしています。私から情報を発信しない。裏切り者が現れれば、私がある場を去り、一旦反省期間を置いてあげます。反省も良心もないと判断されれば「追放する」という行動に移行します。人生の残された未来を共に共有し生活することが出来ないからであります。

日本語に“魔（ま）がさす”という言葉があります。自分の焦りと、自信過剰の行き過ぎた状態で、身分相応に生きる事を忘れた時に起こると思います。そういう時は親の命日、家族の誕生日も忘れていることが多く、有頂天になっているのです。皇帝になっている状態です。

童話に“乞食王子”の話がある。年も顔も姿も同じの“王子”と“乞食”が二人いた。“王子”はいい世界に住んでいたが、貧しい人の心と生活が解らない。一方“乞食”はいつも宮殿の前で今日の食べ物を探している。

ある日、たまたま偶然に宮殿の前で二人が出会ったのである。二人は服を交換し、乞食が宮殿に入り、王子が町に出た。しばらくたって乞食の姿をした王子が空腹に耐えきれず宮殿に帰りたくなかったので宮殿の門の前で、「私は王子である」と言ったが門番が入れてくれない。王子は家来の・・・を連れてこい。・・・の大臣を連れてこい。更に・・・。宮殿の偉い人の名前を次から次と言う。さすがに門番も上司に相談して“王子の乞食”が中に入ったところ“乞食の王子”が、「私が王子である」と主張する。つまり“乞食の王子”は席を譲らない。この判定に大司教まで出てきて「この箱の鍵は何処にありますか？」と質問した。“乞食の王子”は答えられないが、“王子の乞食”は「ここにある」と言って自分の座席の下から鍵をだしたという事である。“乞食の王

子”は慌（あわて）て下に降り深く謝ったので、心のやさしい“乞食の王子”は許した。というお話である。

最近、私の事務所に日本の企業が「中国との交流についての相談がしたい」と頻繁に現れます。また日本で起業した中国人もよく相談に訪れます。更に中国の国家ファンドを背景にした投資家までもよく登場します。一方でテレビを見れば“日本人の政治家の揚げ足取り合戦”に辟易（へきえき）する今日この頃であります。

武士道精神の“武士の情け”がない。危機感がない。“時は金なり”の諺を忘れていると言いたい気分であります。日本国民にとって今一番必要な経済対策は、すぐに財政政策に出動すべきであると考えます。金融政策は限界に来ていると感じるのです。“経済”の語源は“経国済民（国を経て民を救済することである）”であります。

政府批判は、これぐらいにしておきましょう。私がこれだけ政府を批判しても逮捕されることはないが、中国人達は可哀そうであります。

同様のことを書けば、完全に逮捕です。その内容が“ノーベル平和賞”ものであっても・・・。

話をもとに戻します。最近中国の書店では、海外の童話の本も少しずつ見かけるようになりました。日本の童話は少ないが日本のアニメはよく読まれています。例えば“コナン”。中国の子供は物心がついたら見るのは全部漢字であります。「子供達がどうして中国語を覚えるのか」、「中国の愛国教育はいつから始めるのか」久しぶりに私の考古学の血が湧き出したので調べてみました。幼稚園からありました。“儿歌三百首”（子供の為の三百の詩、正しい発音と子供に対する啓蒙）にあったのであります。タイトル；国旗紅（国旗は紅）、]「什么紅（なんの紅ですか），

国旗紅（国旗は紅），国旗升旗紅形形（国旗が上がる、紅の形をしています）

御存知のとおり天安門には毛沢東の写真があります。中国人の旅行者達は毛沢東の顔の正面で記念撮影をします。その時日本人旅行者達は記念撮影に入り込む余地がありません。しかし私が不思議に感じたのは毛沢東の写真は正面で見ても位置を変えて斜めから見ても私と目が合うのであります。どこから見ても私と目が合う。毛沢東は目をそらさない。どこからでも見られているというのは、何故か不思議な感覚でありました。そして解明しました。

どこに行っても見られているのは地球上では、太陽であります。

従って、現在中国では毛沢東は太陽なのです。毛沢東は洛陽には絶対行かなかったといわれます。毛沢東も縁起を重視する中国人でありました。中国の洛陽は太陽が沈む（死ぬ）所であるから。中国語では、洛陽と落陽は同じ発音であり（luo yang; ローヤン）と発音します。私は中国人が太陽には感謝していることが解りました。また、私は中国人が毛沢東から“愛国心”を教えられたが“良心”を教えられてないのではないかとも思うのであります。

もしも中国の太陽毛沢東が日本に来て伊勢神宮を見たとしたら中国人がもっと日本人の心に近づいたのではと思うこともあります。伊勢神宮の近くに二見が浦あるのはよく知られています。太平洋から朝一番に太陽が顔をだす場所であります。それでは皆さん、現在の中国の若者夫婦の家庭には毛沢東の写真では

なく、若い夫婦の結婚記念写真が貼られていることをご存知でしょうか。



中国のドラマ“国家公訴”の最終場面、副省長が「私は良心に誓って悪いことをしていない。」と言うのに対し、「提到了良心 让我深感震惊 我请问王长恭 你真的有良心吗 你的良心究竟在那里 如果你有良心・・・」

(良心の言葉を使いましたね、私は体が震える程吃驚した。私は“(副省長) 王長恭にお聞きします。貴方は本当に良心があるのですか、貴方の良心は究極どこにあるのですか、もし良心のあるとすれば・・・事件は?・・・、もし・・・、もし・・・) と裁判所で女検事長が被告の副省長を問い詰める場面は中国人の正義感の良心を感じました。結果、副省長と愛人は死刑になりました。

人脈のある日本人男子は“人の心はお金で買うものではない、自分の純粋な気持ちと態度で買うもの”と思っています。一方、中国人男子も三国志の劉備玄德が諸葛孔明を軍師として招くように“三顧の礼”の態度を持っているのであります。口やかましい日本人男子はそうではないようです。また、“感謝と良心の無い人”は仏教でもキリスト教でも死後に罰を受けるようであります。2010/10/23 2010/11/21